

# 自動運転「レベル2」実証

## 障害物自動回避など検証

愛知県



愛知県は、愛・地球博記念公園(モリコロパーク、愛知県長久手市)で自動運転の社会実装を見据えた実証試験を実施した。公園内の管理道路を自動運転「レベル2」(高

度な運転支援)で運行し、将来の無人自動走行を想定して障害物の自動回避や、車両と遠隔監視システム、路側カメラとの連携を検証した。

県では全国に先駆けて2016年度から自動運転の実証実験を重ねてきた。今年度はこの実証を皮切りに、常滑市、名古屋市の3地域で自動運転技術の向上やビジネスモデルの構築を目指した実証を行う予定にしている。

モリコロパークでの実証実験は11日間、園内の管理道路を往復する約3・8キロメートルで行われた。写真:タジマモーターコーポレーション(浅井秋彦社長、東京都中野区)の小型電気自動車(E

V)バス「GSM8」をベースにした車両1台を使用し、ルート上に置いた木の枝や停車車両を安全に自動回避できることを検証した。

自動運転システムはアイサントテクノロジーとティアフォー(加藤真平社長、名古屋市中央区)が構築し、オープンソースプラットフォーム「オートウエア」と事前に取得した三次元(3D)マップを用いて運行。過去に取得した3Dマップデータを流用してラニングコストを抑え、電波環境にも依存しない運行を検証した。

一般客を対象にした試乗会に先立ち、大村秀章愛知県知事が試乗。大村知事は試乗後「自動運転の実現には技術と社会的受容性、ビジネスモデルの構築が欠かせない。今回の実証実験で大きく前進できた」と述べた。